

番号	事業概要・事業主体等	事業の進捗状況	事業採択時の状況及び社会情勢の変化等	事業効果	環境への配慮 事業を中止した場合の影響 (生活環境・自然環境への影響) (事業を中止した場合の影響)	今後の県の方針案 (継続・中止)
4	<p>(事業名・地区) 朝酌川 流域治水対策河川事業</p> <p>(事業位置) 【前回】 松江市西川津町外 【今回】 松江市学園南外</p> <p>(事業費) 【前回】 27,917,000千円 【今回】 4,900,000千円</p> <p>(事業概要) 【前回】 全体延長 L=10,960m 朝酌川 L=3,660m 北田川 L=2,350m 京橋川 L=2,550m 四十間堀川 L=1,550m 城山西堀川 L=850m 築堤、掘削、護岸、水門、樋門、橋梁</p> <p>【今回】 上追子川 ポンプ場増設 N=1 基 四十間堀川 放水路 L=350m 橋梁部幅 N=1 橋 中川 河川調節池 N=1 箇所</p> <p>(事業主体の根拠) 河川法第9条2項</p> <p>(再評価区分) ⑥ 社会情勢の変化等により知事が必要と認める事業</p> <p>(担当部課名) 土木部河川課</p>	<p>(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) 【前回】 事業採択年度：昭和44年度 用地着手年度：昭和44年度 工事着手年度：昭和44年度 完了予定年度：平成40年度 経過年数：45年</p> <p>【今回】 事業採択年度：S44年度 用地着手年度：S44年度 工事着手年度：S44年度 河川整備計画策定：H26年度 完了予定年度：H37年度 経過年数：47年</p> <p>(進捗状況と今後の見込み) 【前回】 進捗率：34% 用地：29% 工事：32% 平成40年度完成予定</p> <p>【今回】 進捗率：0% 用地：0% 工事：0% 平成37年度完成予定</p>	<p>(事業導入経緯・目的) 事業着手前の河川は、流下能力が著しく低く度々浸水被害が発生していた。S39の梅雨前線豪雨による洪水で大きな被害が発生し、抜本的な治水対策を行うため、事業に着手することとなった。</p> <p>(事業を取り巻く社会情勢) 当河川は、松江市内の中心地である橋北地区を縦断し、大橋川へ流下する河川である。橋北地区は人口・資産が集中する地域であり、県庁、市役所等の地域の中核・拠点機能を有している。また、松江城をはじめとした文化財や史跡等も多く存在し、古くから出雲地域の経済・産業の中心地となっている。今後も流域内の土地利用の高度化に伴い人口・資産の増加が見込まれている。</p> <p>(事業に対する地元情勢・計画の態度) 河川網を形成している松江市の橋北地区は、古くから出雲地域の経済・産業の中心であることから、洪水による浸水被害の防止は極めて重要かつ緊急の課題であり、地元住民は河川改修の早期完成を熟望している。</p>	<p>(費用対効果) b/c=1.94</p> <p>(コスト削減・代替案等) (その他の効果) 高度な土地利用が図られている区域であり、治水安全度の向上により、将来的に安全な生活基盤が確保でき、民生の安定が図られる。</p>	<p>(生活環境・自然環境への影響) 河川護岸の改築時には、堀川遊覧船等の観光に配慮しつつ、生物の棲家となるような材料や構造を工夫し、在来種への環境の改変を最小限に抑える計画を検討する。 また、排水機場、水門等の設置について、周辺景観に配慮した計画とする。</p> <p>(事業を中止した場合の影響) 現河川の流下能力は著しく低く、治水機能が大きく不足している。このまま現段階での事業中止では、家屋等への被害を軽減することは困難である。 ・浸水被害履歴 S39：床上56戸、床下277戸、浸水面積39.8ha S47：床上4,789戸、床下4,762戸、浸水面積48.1ha S56：床上69戸、床下850戸、浸水面積28.7ha H18：床上31戸、床下3,466戸、浸水面積89ha(橋北全体)</p>	<p>(方針案) 継続</p> <p>(継続・中止の理由) 現河川の流下能力は著しく低く、治水安全度は低い状況であるため、治水対策は必要である。また、国が整備する大橋川改修工事について、H23年度より本格着手したことを受け、国等の関係機関と調整を図りながら引き続き事業を進めていく必要がある。</p>

※平成25年度再評価時は河川整備計画変更途中であり、計画策定後に再評価委員会に報告することとしていました。平成27年3月、河川整備計画検討委員会で審議された新たな計画を策定しました。

【前回】：H25再評価委員会時
【今回】：河川整備計画策定後

これまでの朝酌川の治水事業

事業の経緯

昭和39年7月豪雨を契機に、昭和44年度より河川改修に着手し、継続的に整備を進めてきました。

事業の概要

- 概ね50年に1回程度の確率で発生する降雨による洪水に対し、家屋等の浸水被害の解消を図ります。
- 河川の拡幅、河床の掘削、橋梁等の改築により流下能力の向上。
- 大橋川及び朝酌川本川の洪水逆流防止のため、水門・樋門及び内水排除用ポンプを整備。



整備進捗により一定の治水効果発現

一方、治水計画の課題

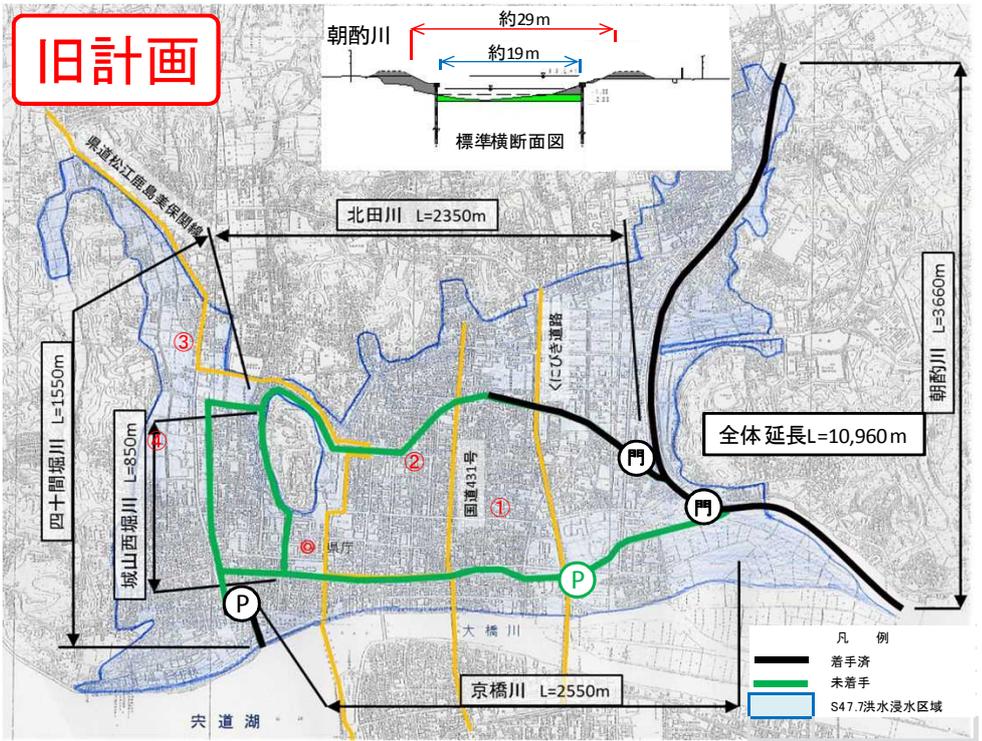
- 国が策定した「斐伊川水系河川整備計画」(H22.9)と整合、連携した治水計画が必要。
- 近年の豪雨災害の大型・頻発化を鑑み、最小限のコストで迅速に効果が得られる治水計画が求められる。

松江市街地治水計画策定 (H26.9)

過去の事業を活かしつつ、上記の課題をふまえた流域対策、ソフト対策等を盛り込んだ総合的な治水計画。(県・松江市共同)

河川整備計画策定 (H27.3 島根県)

松江市街地治水計画のうち、事業効果や優先順位を考慮し、県が行う河川事業を位置付けた法定計画。



河川整備計画策定後 (H27.3)

朝酌川流域治水対策河川事業

河川の概要

- 朝酌川は松江市の橋北中心市街地を流下し、大橋川に注ぐ延長約9kmの一級河川です。
- 治川の橋北地区では、S39年、S47年、H18年の梅雨前線豪雨等による洪水で大きな被害が発生しました。
- 朝酌川治川は古くから出雲地域の経済・産業の中心であり、市街地の浸水被害の防止は極めて重要な課題です。朝酌川流域の治水対策を行うことで、地域の安全・安心に大きな役割を果たします。

事業の概要

昭和47年7月豪雨相当の洪水に対して松江市街地(橋北)の浸水被害の軽減を図ります。

- 上追子川：排水ポンプ増設(5→10m³/s)
- 四十間堀川：放水路整備、交融橋地点の拡幅
- 中川：河川調整池の整備

災害発生年月	名称	浸水家屋数(戸)		浸水面積 (ha)
		床上	床下	
S39.7	豪雨	56	277	398
S47.7	豪雨・台風6, 7, 9号	4789	4762	481
H18.7	梅雨前線豪雨	31	346	89

